

研究主題：自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり
 ～みんなが楽しいと思える学校づくりを基盤とした生徒指導の推進～

◆ 本校の課題

- 全国学力・学習状況調査から見られる基礎学力の定着不足
- コミュニケーションスキルが十分身に付いていないことから生ずる、話し合い活動から全体の学びに結びつける難しさ

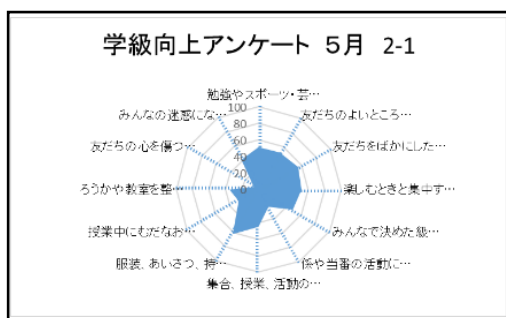
◆ 研究仮説

UDの視点に加え、生徒指導の三機能を指導の観点とし、学級活動の授業を軸として生徒が共働するような学習課題を設定すれば、一人一人のよさを生かしながら学習に向かう意欲を高めていくことができるのではないかと。

◆ 実践内容

(1) 校内研修

- ・ 現職教育（月1回）
- ・ 現教推進委員会（年6回）
- ・ ピアサポート研修
- ・ Q-U 調査分析研修
- ・ 学級会研修
- ・ 校内研究授業
- ・ 相互授業参観



(2) 各部会の取組

① なかまづくり部会

- ・ Q-U 調査分析（年2回）による生徒理解
- ・ ストレングスカードを利用した相互理解
- ・ 道徳教育の推進による温かな集団づくり

② 特活部会

- ・ 生徒自らが学級づくりの主人公となり、協調して目標に向かって挑戦、改良するPDCAサイクルの中で自己有用感を育てる。（「一中学級力向上プロジェクト」）

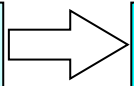
③ 授業研究部会

- ・ UDの視点に加え、生徒指導の三機能を生かした指導の手立ての考察（授業改善）
- ・ 「一中学級力向上プロジェクト」の学習の流れ（ア「課題をつかむ」イ「意見や考えを出し合う」ウ「比べ合う」エ「まとめる」オ「振り返る」）を取り入れた教科指導の推進

◆ 成果と課題(県学習状況調査「生徒質問紙」アンケート結果から)

(生徒質問紙) 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

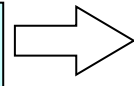
R3年度
76.7%



R4年度
82.0%

(生徒質問紙) 授業は楽しいと思えますか。

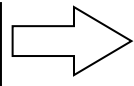
R3年度
65.8%



R4年度
70.0%

(生徒質問紙) 授業の内容がどの程度分かりますか。

R3年度
50.2%



R4年度
48.0%

生徒が自分の学級（学年）をよりよくするために積極的に意見を出し合う「一中学級力向上プロジェクト」の実施により、意見を交流させる環境が整ってきた。その中でそれぞれが自分の考えを広げたり深めたりすることができたため、授業を楽しんでいるのだと推測できる。しかし、授業内容の理解については、肯定的な回答をした生徒が半数を割った。次年度は学び方について検討し直し、活動に必要な基礎的な知識や技能を個々に身につけさせた上で学び合いを行うなどして、生徒の理解を深めたいと考えている。